

教授  
荒木 剛

## ■ 学歴

---

1. 2021年 久留米大学大学院 比較文化研究科 後期博士課程 修了

## ■ 学位

---

1. 2021年 博士（保健福祉学）

## ■ 研究分野

---

1. 高齢者福祉
2. ソーシャルワーク
3. 実習教育（社会福祉士養成課程）

## ■ 研究キーワード

---

1. 地域包括支援センター
2. 地域を基盤としたソーシャルワーク
3. ソーシャルワーク実習

## ■ 研究課題

---

1. 高齢者福祉領域における地域を基盤としたソーシャルワークのあり方を検討する。
2. 社会福祉士養成課程における実習教育のあり方を検討する。

## ■ 担当授業科目

---

1. 福祉入門（1年前期）必修
2. 基礎実習（1年通年）選択
3. 高齢者福祉（2年前期）必修
4. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2年通年）選択
5. ソーシャルワーク実習Ⅰ（2年後期）選択
6. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（2年前期）選択
7. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（2年後期）選択
8. 高齢者支援学Ⅰ（2年前期）（保健福祉学部）選択
9. 社会福祉の原理と政策Ⅰ（3年前期）必修
10. 社会福祉の原理と政策Ⅱ（3年後期）必修
11. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（3年通年）選択
12. ソーシャルワーク実習Ⅱ（3年通年）選択
13. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（3年前期）選択
14. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（3年後期）選択
15. 専門研究Ⅰ（3年通年）必修

- 16. 専門研究Ⅱ（4年通年）必修
- 17. 高齢者支援学Ⅱ（4年前期）選択 ※不開講

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p><b>授業科目名【福祉入門】</b></p> <p>本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、さまざまな社会福祉の実践現場を学び、今後の学習や実習への動機づけを行うことを目的としている。講義では、初学者である1年生が社会に生じる福祉課題の現状を理解するとともに、対人援助職の魅力とやりがいを具体的にイメージできるよう工夫した。また、教授内容の検討や外部講師との日程調整を行うなど、授業全体の管理運営役を担った。</p>
2.	<p><b>授業科目名【基礎実習】</b></p> <p>本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、学生が対人援助のフィールドで体験型学習（100時間）を行うものである。講義は学生を3グループに分け、担当制により実施した。実習前には、対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先や利用者特性について理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験からの学びや気づきを深めさせた。</p>
3.	<p><b>授業科目名【高齢者福祉】</b></p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられている。講義では、单元ごとに教科書の内容を踏まえたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、適宜、新聞記事やDVD等を活用し、最新情報の提供と高齢者福祉の実情理解を促した。毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努め、理解が不十分と判断された内容については、次回の授業時に再度解説を行った。</p>
4.	<p><b>授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】</b></p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目であり、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前・実習中・事後指導を主な内容としている（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD等の視覚教材により、実習現場で必要となる知識・支援技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、実習への準備性と動機を高めさせた。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。</p>
5.	<p><b>授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】</b></p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、福祉施設・事業所等において学外実習（60時間）を行うものである（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習の実施にあたっては、実習先との日程調整や実習プログラムの確認を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生個々の状況について実習指導者と情報を共有し、各人が円滑かつ適切に実習に取り組めるよう配慮した。</p>
6.	<p><b>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】</b></p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられている。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点や姿勢、ソーシャルワークの支援過程について教授した。また、支援事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを実践的に理解・習得できるよう工夫した。</p> <p>※ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、4グループのローテーションによる授業展開となっ</p>

	ており、各科目の教授内容・方法は同じとなっている。
7.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】</p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、地域福祉の基盤整備に関わる実践について教授するものである。講義では、調べ学習、グループ学習、事例検討などを用いて、地域特性や課題の理解、地域づくりに必要なソーシャルワークの知識・技術の習得に努めた。また、実習後の講義では、各人の実習体験の共有を行うとともに、それらを一般化し、ソーシャルワークの視点から知識・技術として習得できるよう指導した。</p>
8.	<p>授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】</p> <p>本科目は、保健福祉学部3学科による合同講義であり、アクティブ高齢者への支援について講義（3回）とPBL（5回）を通して教授するものである。講義では、高齢者福祉制度（主に介護保険制度）について解説し、他学科の学生も理解が深まるよう説明内容や方法、配布資料を工夫した。また、PBLにおいては、3学科の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう助言を行った。</p>
9.	<p>授業科目名【社会福祉の原理と政策Ⅰ】</p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、2021年度新カリキュラムによるものである。社会福祉の原論が主な内容となっており、学生にとってやや難易度が高い科目と思われる。したがって講義では、内容理解を助けるために、教科書の内容を踏まえたレジュメの作成や図解を用いるなどの工夫を行った。また、毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めるとともに、理解が不十分と判断された内容については、次回の授業時に再度解説を行った。</p>
10.	<p>授業科目名【社会福祉の原理と政策Ⅱ】</p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、2021年度新カリキュラムによるものである。福祉政策が主な内容となっており、学生にとってやや難易度が高い科目と思われる。したがって講義では、内容理解を助けるために、教科書の内容を踏まえたレジュメの作成や図解を用いるなどの工夫を行った。また、毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めるとともに、理解が不十分と判断された内容については、次回の授業時に再度解説を行った。</p>
11.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】</p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目であり、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前・実習中・事後指導を主な内容としている（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD等の視覚教材により、実習現場で必要となる知識・支援技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、実習への準備性と動機を高めさせた。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。</p>
12.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅱ】</p> <p>本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、福祉施設・事業所等において学外実習（180時間）を行うものである（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習の実施にあたっては、実習先との日程調整や実習プログラムの確認を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生個々の状況について実習指導者と情報を共有し、各人が円滑かつ適切に実習に取り組めるよう配慮した。</p>
13.	<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>本科目では、学生の興味・関心を踏まえ、研究テーマの設定を行った。履修者が1名だったために、本人が自身のペースで意欲的・継続的に学習を進められるよう指導を心がけた。</p>
14.	<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p>

本科目では、各人が自身で研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。指導においては、意欲的・継続的に学習に取り組めるようコミュニケーションを密に図った。また、各人の進捗状況に応じた指導を心がけた。

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1998年4月～現在に至る	日本社会福祉士会	
2.	2002年3月～現在に至る	日本社会福祉学会	
3.	2007年3月～現在に至る	日本地域福祉学会	
4.	2007年3月～現在に至る	日本介護福祉学会	
5.	2008年1月～現在に至る	日本ケアマネジメント学会	

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）共同研究				
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）	

1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究

	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2009年4月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 権利擁護・市民後見センター運用委員会	委員
2.	2018年4月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会	委員
3.	2017年4月～現在に至る	社会福祉法人兼恵園 評議員会	評議員
4.	2021年6月～現在に至る	社会福祉法人北九州市福祉事業団 評議員会	評議員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019年4月～現在に至る	教務委員	副委員長
2.	2021年4月～現在に至る	入試会議	
3.	2021年4月～現在に至る	地域連携室	室長